

公開用 研究内容

研究課題名	糖尿病患者に対する SGLT2 阻害薬投与における尿糖排泄量の変化についての検討
研究の内容	<p>【目的】 SGLT2 阻害薬の長期における効果を評価するために、投与開始から 1 年以上経過した患者さんの 24 時間蓄尿での尿糖排泄量の変化を検討します。</p> <p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●対象となる患者さん 当院通院中の糖尿病患者さんで 2017 年以降に SGLT2 阻害薬が開始され、投与開始前、投与開始後 1 年以内、さらにその 1 年後の 3 回で 24 時間蓄尿を評価できた症例。 ●利用する検体、カルテ情報 カルテ情報：診断名、年齢、性別、検査結果（血液検査、尿検査） <p>【提供方法】 自施設 【利用範囲】 自施設 【情報管理責任者】 若山尚寛 【拒否機会の保障】 研究対象者の求めに応じて、研究対象者が識別される試料・情報の利用又は他の研究機関への提供を停止する</p>
対象疾患	糖尿病
研究責任者	糖尿病・腎臓内科 若山尚寛
承認年月	2024 年 1 月

研究課題名	イメグリミンの治療効果の検討
研究の内容	<p>【目的】 2021 年 9 月に本邦でイメグリミンが上市されました。比較的新しい薬剤であり、まだその有用性についての報告は多くはないため、イメグリミンの血糖に与える作用について検討しました。</p> <p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●対象となる患者さん 2 型糖尿病の患者さんで、西暦 2021 年 11 月 1 日から西暦 2023 年 5 月 31 日の間にイメグリミンの処方を受けた方 ●利用するカルテ情報 カルテ情報：診断名、年齢、性別、身体所見、血液検査結果

	<p>【提供方法】自施設</p> <p>【利用範囲】自施設</p> <p>【情報管理責任者】上田健太郎</p> <p>【拒否機会の保障】研究対象者の求めに応じて、研究対象者が識別される試料・情報の利用又は他の研究機関への提供を停止する</p>
対象疾患	2型糖尿病
研究責任者	糖尿病・腎臓内科 上田健太郎
承認年月	2024年1月

研究課題名	冠動脈瘤に合併する急性冠症候群に対するエキシマレーザーの有効性
研究の内容	<p>【目的】 冠動脈瘤に合併する急性冠症候群に対するエキシマレーザーの有効性を評価する</p> <p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●対象となる患者さん 西暦2010年1月1日から西暦2023年12月31日までに大垣市民病院にて冠動脈瘤によって急性冠症候群を発症し、経皮的冠動脈形成術を行なった患者 ●利用する検体、カルテ情報 検体：なし カルテ情報：診断名、年齢、性別、身体所見、既往歴、検査結果（血液検査、画像検査、心電図検査、心エコー検査、冠動脈造影所見、冠動脈形成術に使用した物品）、負荷シンチ検査所見、死亡の有無、カテーテル治療の有無 <p>【提供方法】自施設</p> <p>【利用範囲】自施設</p> <p>【情報管理責任者】柴田 直紀、森島 逸郎</p> <p>【拒否機会の保障】研究対象者の求めに応じて、研究対象者が識別される試料・情報の利用又は他の研究機関への提供を停止する</p>
対象疾患	冠動脈瘤によって急性冠症候群を発症した患者
研究責任者	循環器内科 柴田 直紀、森島 逸郎
承認年月	2024年1月

研究課題名	エキシマレーザーを使用した経皮的冠動脈形成術に関する臨床的
-------	-------------------------------

	予後調査
研究の内容	<p>【目的】 冠動脈疾患を有する患者における、エキシマレーザーを用いたカテーテル治療の有用性の検討を行う</p> <p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●対象となる患者さん 西暦 2016 年 1 月 1 日から西暦 2023 年 12 月 31 日までに大垣市民病院にて経皮的冠動脈形成術を行なった患者 ●利用する検体、カルテ情報 検体：なし カルテ情報：診断名、年齢、性別、身体所見、既往歴、検査結果（血液検査、画像検査、心電図検査、心エコー検査、冠動脈造影所見、冠動脈形成術に使用した物品）、負荷シンチ検査所見、死亡の有無、カテーテル治療の有無 <p>【提供方法】 自施設 【利用範囲】 自施設 【情報管理責任者】 柴田 直紀、森島 逸郎 【拒否機会の保障】 研究対象者の求めに応じて、研究対象者が識別される試料・情報の利用又は他の研究機関への提供を停止する</p>
対象疾患	冠動脈疾患を有し経皮的冠動脈形成術を施行された患者
研究責任者	循環器内科 柴田 直紀、森島 逸郎
承認年月	2024 年 1 月

研究課題名	薬剤師による早期モニタリングとフィードバックがアミノグリコシド系薬の適正使用に与える影響
研究の内容	<p>【目的】 アミノグリコシド系薬の適正使用に対して、薬剤師主導の早期モニタリングとフィードバックが与える影響を明らかにする。</p> <p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●対象となる患者さん 西暦 2014 年 1 月 1 日から西暦 2023 年 12 月 31 日までに大垣市民病院において、アミノグリコシド系薬（当院採用薬であるトブラマイシン、アミカシン、ゲンタマイシンおよびアルベカシン）が静脈注射された入院患者さん ●利用するカルテ情報 カルテ情報：患者背景（年齢、性別、体重、感染巣）、血液所見

	<p>(腎機能、血液培養検出菌、血中濃度)、治療(投与量、投与理由、薬剤師による介入、抗菌薬適正使用支援ラウンド介入)、転帰(30日以内死亡、腎障害を含む副作用発現)</p> <p>【提供方法】自施設</p> <p>【利用範囲】自施設</p> <p>【情報管理責任者】篠田康孝</p> <p>【拒否機会の保障】研究対象者の求めに応じて、研究対象者が識別される試料・情報の利用又は他の研究機関への提供を停止する</p>
対象疾患	アミノグリコシド系薬使用患者
研究責任者	薬剤部 篠田康孝
承認年月	2024年1月

研究課題名	病院における薬剤師外来の役割と評価 - 経口抗がん薬、オピオイド、エピペン、吸入薬 -
研究の内容	<p>【目的】 経口抗がん薬、オピオイド、エピペン、吸入薬に対する薬剤師外来を病院薬剤師が行う利点の検討</p> <p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●対象となる患者さん 下記の期間、対象薬剤が大垣市民病院で処方された患者さん 経口抗がん薬：対象薬剤が西暦2020年4月1日から西暦2023年12月31日まで オピオイド：西暦2018年1月31日から西暦2022年12月31日まで エピペン：西暦2023年7月から西暦2023年12月31日まで 吸入薬：西暦2018年4月30日から2023年12月31日まで ●利用する検体、カルテ情報 カルテ情報：対象薬剤が処方された患者数、年齢、身長、体重、体表面積、処方内容、副作用 <p>【提供方法】 自施設</p> <p>【利用範囲】 自施設</p> <p>【情報管理責任者】西村 充礼</p> <p>【拒否機会の保障】研究対象者の求めに応じて、研究対象者が識別される試料・情報の利用又は他の研究機関への提供を停止する</p>
対象疾患	悪性新生物、アレルギー、喘息、COPD等

研究責任者	薬剤部 西村 充礼
承認年月	2024年1月

研究課題名	小児期の慢性好中球減少症の検討
研究の内容	<p>【目的】</p> <p>小児期の慢性好中球減少症の多くが、乳児期に発症する自己免疫性好中球減少症が原因ですが、その他に白血病などの血液悪性疾患、重症先天性好中球減少症などの遺伝性疾患といったの多彩な原因があります。現在のところ小児期の慢性好中球減少症に対する検査の進め方や自己免疫性好中球減少症の治療方法は定まっていません。本研究では、小児の慢性好中球減少症患者さんの原因、症状、治療法、治療期間、予後などを検討し、今後の検査法や治療法に役立てます。</p> <p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●対象となる患者さん <p>西暦2018年4月1日から西暦2024年2月26日の間に慢性の好中球減少症と診断された15歳以下の方</p> <ul style="list-style-type: none"> ●利用する検体、カルテ情報 <p>検体：なし</p> <p>カルテ情報：診断名、年齢、性別、身体所見、検査結果、治療法、治療期間、予後。</p> <p>【提供方法】 自施設</p> <p>【利用範囲】 自施設</p> <p>【情報管理責任者】 小島 大英</p> <p>【拒否機会の保障】 研究対象者の求めに応じて、研究対象者が識別される試料・情報の利用又は他の研究機関への提供を停止する</p>
対象疾患	15歳以下の慢性好中球減少症患者
研究責任者	小児科 小島大英
承認年月	2024年2月

研究課題名	小児炎症性腸疾患の臨床的検討
研究の内容	<p>【目的】</p> <p>炎症性腸疾患とは、慢性あるいは寛解・再燃性の腸管の炎症性疾患を総称しており、一般に潰瘍性大腸炎とクローン病を指します。</p> <p>近年、小児の炎症性腸疾患の患者さんが増えてきています。小児炎</p>

	<p>症性腸疾患の臨床症状、検査結果、治療方法、治療期間などを把握することで今後の診療に役立てます。</p> <p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●対象となる患者さん 西暦 2018 年 4 月 1 日から西暦 2024 年 2 月 26 日の間に潰瘍性大腸炎またはクローン病の診断を受けた 15 歳以下の方 ●利用する検体、カルテ情報 検体：なし カルテ情報：診断名、年齢、性別、身体所見、検査結果（血液検査、消化管内視鏡検査、注腸 X 線検査）、治療法、治療期間。 <p>【提供方法】 自施設 【利用範囲】 自施設 【情報管理責任者】 小島 大英 【拒否機会の保障】 研究対象者の求めに応じて、研究対象者が識別される試料・情報の利用又は他の研究機関への提供を停止する</p>
対象疾患	潰瘍性大腸炎、クローン病
研究責任者	小児科 小島大英
承認年月	2024 年 2 月

研究課題名	前立腺肥大症に対する経尿道的前立腺吊り上げ術の臨床的検討
研究の内容	<p>【目的】 前立腺肥大症に対する経尿道的前立腺吊り上げ術の有効性と安全性を示し、今後の治療選択において有用な情報を提供するため。</p> <p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●対象となる患者さん 前立腺肥大症の患者さんで、西暦 2023 年 7 月 1 日から西暦 2024 年 3 月 21 日の間に経尿道的前立腺吊り上げ術を受けた方 ●利用する検体、カルテ情報 カルテ情報：年齢、性別、身長、体重、BMI、主訴、前立腺体積、前治療、治療前 IPSS、治療前 OABSS、尿流量測定、残尿量、麻酔方法、既往症、術後 IPSS、術後 OABSS、術後尿流量測定、術後残尿量、尿道カテーテル留置期間、自己導尿離脱率、合併症 <p>【提供方法】 自施設 【利用範囲】 自施設</p>

	<p>【情報管理責任者】 谷口 友規</p> <p>【拒否機会の保障】 研究対象者の求めに応じて、研究対象者が識別される試料・情報の利用又は他の研究機関への提供を停止する</p>
対象疾患	前立腺肥大症
研究責任者	泌尿器科 谷口友規
承認年月	2024年3月

研究課題名	十二指腸乳頭部癌に対する腹腔鏡手術と開腹手術の比較研究
研究の内容	<p>【目的】</p> <p>2008年から2023年の期間に当院で実施した十二指腸乳頭部癌に対する腹腔鏡手術と開腹手術を後方視的に解析し、患者背景、短期成績、長期成績について検討を行う。</p> <p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●対象となる患者さん <p>2008年から2023年の間に当院で根治切除を企図して手術が行われ、術後病理組織検査で十二指腸乳頭部癌と診断された患者さん</p> <ul style="list-style-type: none"> ●利用する検体、カルテ情報 <p>カルテ情報：診断名、年齢、性別、身体所見、検査結果（血液検査、画像検査、など）。</p> <p>【提供方法】 自施設</p> <p>【利用範囲】 自施設</p> <p>【情報管理責任者】 佐久間 政宜</p> <p>【拒否機会の保障】 研究対象者の求めに応じて、研究対象者が識別される試料・情報の利用又は他の研究機関への提供を停止する</p>
対象疾患	十二指腸乳頭部癌と診断された患者さん
研究責任者	外科 佐久間政宜
承認年月	2024年3月

研究課題名	進行・再発大腸がんにおけるパニツムマブ投与時の低マグネシウム血症に対する薬剤師主導によるプロトコール作成の有用性
研究の内容	<p>【目的】</p> <p>EGFR抗体薬であるパニツムマブは、進行・再発結腸・直腸がんに対して使用されており、特徴的な副作用に皮膚障害や爪囲炎、低マグネシウム血症がある。低マグネシウム血症では初期は自覚症状に乏しいが、重篤化すると治療の継続に困難になる場合がある。そこで、低マグネシウム</p>

	<p>ム血症の発現時の対応について薬剤師主導でプロトコールを作成し、その有用性について検討する。</p> <p>●対象となる患者さん 大腸がん患者さんで、西暦 2010 年 1 月 1 日から西暦 2023 年 12 月 31 日の間にパニツムマブの投与を受けた方</p> <p>●利用する検体、カルテ情報 後向き観察研究 研究対象者について、下記の臨床情報を診療録より取得する。</p> <p>① 臨床所見（年齢、性別、BMI、臨床病期、原発部位、転移部位、 治療レジメン名、治療ライン、コース数、治療成功期間）</p> <p>② 血液所見（血清マグネシウム等）</p> <p>③ 治療内容（投与量、減量の理由、中止理由）</p> <p>④ 副作用（低マグネシウム血症、皮膚障害等）</p> <p>【提供方法】自施設 【利用範囲】自施設 【情報管理責任者】伊藤 大輔 【拒否機会の保障】研究対象者の求めに応じて、研究対象者が識別される試料・情報の利用又は他の研究機関への提供を停止する</p>
対象疾患	大腸がん
研究責任者	薬剤部 伊藤大輔
承認年月	2024 年 3 月

研究課題名	高齢な卵巣がん患者のニラパリブに対する忍容性評価-予備調査-
研究の内容	<p>【目的】 本研究では、75歳以上の高齢者における副作用発現率を検証し安全性を明らかにする。</p> <p>【方法】 ●対象となる患者さん 2020 年 1 月 1 日から 2024 年 3 月 31 日の間に大垣市民病院にて、卵巣がん患者にニラパリブが投与された患者</p> <p>●利用する検体、カルテ情報 検体：なし カルテ情報：患者特性（年齢、性別、身長、体重、ALB、CRE、臨床病期）、用量、NRS による評価、副作用、維持量達成状況、治療中止事由</p> <p>【提供方法】</p>

	自施設 【利用範囲】 自施設 【情報管理責任者】 松山里奈 【拒否機会の保障】 研究対象者の求めに応じて、研究対象者が識別される試料・情報の利用又は他の研究機関への提供を停止する
対象疾患	卵巣がん
研究責任者	薬剤部 松山里奈
承認年月	2024年3月

研究課題名	小児アドレナリン自己注射患者を対象とした薬剤師によるエピペン外来の有用性評価
研究の内容	<p>【目的】</p> <p>アドレナリン自己注射薬（エピペン®）は、2005年に小児への処方が可能となり、アナフィラキシーの緊急時治療として重症化リスクの軽減につながることが期待されています。しかし、アナフィラキシー出現時に医療機関受診前のエピペン使用率が46%であるという報告や、エピペンを所持しているにも関わらず約半数が使用できていないという報告があります。この原因としてアナフィラキシー症状の認識が不十分であることやエピペンを使用することへの恐怖心などが考えられます。エピペンは自己注射であるため、使用タイミングや使用方法について患児または保護者がしっかり理解しなければならず、患者教育が重要となります。これまで当院では、医師がエピペンを処方する際、小児科外来にて医師または看護師より説明が行われていましたが、指導に十分な時間を費やすことができないことが課題でした。こうした背景から、2023年7月より薬剤師がエピペン処方患児への指導を開始しました。そこで今回、エピペンに関する患者の理解度の変化や指導の満足度についてアンケート調査を実施し、薬剤師がエピペン指導に介入することによる有用性を評価します。</p> <p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●対象となる患者さん 2023年7月1日から2024年3月31日の間に大垣市民病院にて、エピペンが処方された小児患者さん ●利用する検体、カルテ情報 検体：なし

	カルテ情報：患者特性（年齢、性別）、指導前後のアンケート用紙（理解度調査、満足度調査）、指導用説明書 【提供方法】自施設 【利用範囲】自施設 【情報管理責任者】吉田真也 【拒否機会の保障】研究対象者の求めに応じて、研究対象者が識別される試料・情報の利用又は他の研究機関への提供を停止する
対象疾患	小児のアナフィラキシー
研究責任者	薬剤部 吉田真也
承認年月	2024年3月

研究課題名	Dose Rounding と Drug Vial Optimization による抗がん剤廃棄量削減効果の比較
研究の内容	<p>【目的】抗がん薬 Dose Rounding (DR) および Drug Vial Optimization (DVO) を導入した際の残薬削減効果をシミュレーションし、抗がん薬廃棄量削減効果を比較検討することを目的とする。</p> <p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●対象となる患者様 西暦 2023 年 1 月 1 日から西暦 2023 年 12 月 31 日までに研究参加施設において調製された抗がん薬(ゲムシタビン、ベバシズマブ、ラムシルマブ、トラスツズマブ、フルオロウラシル、レボホリナート)が投与された患者様。 ●利用する検体、電子カルテ情報 抗がん薬治療患者数、治療総数、調製量 <p>【提供方法】 研究代表施設に電子媒体で送付し、データにはパスワードを設定する</p> <p>【利用範囲】自施設および共同研究施設（神奈川県立足柄上病院）</p> <p>【情報管理責任者】宇佐美英績</p> <p>【拒否機会の保障】研究対象者の求めに応じて、研究対象者が識別される資料・情報の利用又は他の研究機関への提供を停止する</p>
対象疾患	抗がん薬(ゲムシタビン、ベバシズマブ、ラムシルマブ、トラスツズマブ、フルオロウラシル、レボホリナート)の治療を行った患者さん
研究責任者	薬剤部 宇佐美英績
承認年月	2024年4月

研究課題名	発作性・持続性心房細動患者におけるクライオバルーンアブレーション術前後の心外膜脂肪組織量の変化：「心房細動が心外膜脂肪を増やす」説を支持する結果
研究の内容	<p>【目的】 心房細動に対する心外膜脂肪組織の影響については、まだ初期の段階である。基本的には、「心外膜脂肪が心房細動を引き起こす」メカニズムは、様々なサイトカイン、酸化ストレス、心房リモデリングを引き起こす脂肪浸潤を介した多因子性要因で示された。しかし、「心房細動が心外膜脂肪を増やす」メカニズムは完全には解明されていない。我々は、洞調律への復帰が心外膜脂肪容積の減少を介して心房の逆リモデリングを引き起こすことを明らかにすることで、心房の逆リモデリングの経路の一つを明らかにしようと試みた。</p> <p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●対象となる患者さん 2015年11月から2023年2月までに初回のクライオ心房細動アブレーション施行されており、治療前、治療後6ヶ月時点で造影CT検査が施行されている患者さん ●利用する検体、カルテ情報 検体：なし カルテ情報：診断名、年齢、性別、身体所見、既往歴、検査結果（血液検査、画像検査、心電図検査、心エコー検査、アブレーション治療に関わる手技内容、心臓CT検査所見） <p>【提供方法】 自施設 【利用範囲】 自施設 【情報管理責任者】 森島 逸郎 【拒否機会の保障】 研究対象者の求めに応じて、研究対象者が識別される試料・情報の利用又は他の研究機関への提供を停止する</p>
対象疾患	心房細動に対してアブレーション施行した患者さん
研究責任者	循環器内科 森島逸郎
承認年月	2024年4月

研究課題名	脾臓摘出患者に対する薬剤師のワクチン接種推奨の取り組みによる接種状況の検討
研究の内容	<p>【目的】 脾臓摘出術を行った患者さんに対し、薬剤師がワクチンの接種推奨を行ったことによるワクチン接種状況について調査、評価します。</p>

	<p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●対象となる患者さん <p>西暦 2020 年 1 月 1 日から西暦 2023 年 12 月 31 日の間に当院外科で脾臓摘出術を行った患者さん</p> <ul style="list-style-type: none"> ●利用する検体、カルテ情報 <p>検体：なし</p> <p>カルテ情報：年齢、性別、病歴に関する情報（疾患名、脾臓摘出理由）、術式、肺炎球菌ワクチンおよび髄膜炎菌ワクチンの接種状況および接種日、医師および他職種による脾臓摘出のカルテ記載の有無</p> <p>【提供方法】 自施設</p> <p>【利用範囲】 自施設</p> <p>【情報管理責任者】 堀田奈央</p> <p>【拒否機会の保障】 研究対象者の求めに応じて、研究対象者が識別される試料・情報の利用又は他の研究機関への提供を停止する</p>
対象疾患	脾臓摘出術を行った患者さん
研究責任者	薬剤部 堀田奈央
承認年月	2024 年 4 月

研究課題名	抗がん薬調製ロボットを活用した単回バイアル複数回使用（DVO）～業務効率を上げた医療費削減のための DVO 薬剤選択～
研究の内容	<p>【目的】</p> <p>抗がん薬調製ロボット使用での DVO を検討し、DVO 業務効率と日本の医療費削減の向上に関する情報提供を目的とします。</p> <p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●対象となる患者さん <p>西暦 2023 年 3 月 1 日から西暦 2024 年 3 月 31 日までに大垣市民病院薬剤部において抗がん薬（パクリタキセル、エトポシド、オキサリプラチン）が投与された患者さん。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●利用する検体、カルテ情報 <p>抗がん薬治療患者数、処方量、調製量</p> <p>【提供方法】 自施設</p> <p>【利用範囲】 自施設</p> <p>【情報管理責任者】 守屋昭宏</p> <p>【拒否機会の保障】 研究対象者の求めに応じて、研究対象者が識別される試料・情報の利用又は他の研究機関への提供を停止する</p>
対象疾患	抗がん薬（パクリタキセル、エトポシド、オキサリプラチン）の投

	与患者さん
研究責任者	薬剤部 守屋昭宏
承認年月	2024年4月

研究課題名	ラムシルマブ投与中の胃がん患者における深部静脈血栓症モニタリングのための下肢超音波検査状況を施行する最適なD-Dimer値の特定
研究の内容	<p>【目的】 ラムシルマブ (Rmab) は、進行・再発の胃がんに対して単独もしくはパクリタキセル (PTX) と併用される。Rmab 投与患者では、静脈血栓塞栓症を認めることがあり注意深い観察が必要になる。その場合、凝固系マーカーでのフォローが推奨されるが、明確な基準はない。本研究は、Rmab を含む化学療法を受けた進行・再発胃がん患者において、下肢超音波検査を施行する D-Dimer 値の目安を明らかにすることを目的とした。</p> <p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●対象となる患者さん ラムシルマブ投与中の胃がん患者さん ●利用する検体、カルテ情報 カルテ情報：診断名、年齢、性別、身体所見、薬剤使用歴、検査結果（血液検査、画像検査） <p>【提供方法】 自施設 【利用範囲】 自施設 【情報管理責任者】 竹中翔也 【拒否機会の保障】 研究対象者の求めに応じて、研究対象者が識別される試料・情報の利用又は他の研究機関への提供を停止する</p>
対象疾患	胃がん
研究責任者	薬剤部 竹中翔也
承認年月	2024年4月

研究課題名	アセトアミノフェン (APAP) 過量摂取患者における N-アセチルシステイン (NAC) 投与の指標の検討
研究の内容	<p>【目的】 アセトアミノフェン (APAP) は、重篤な肝障害など急性中毒の要因となる主要な薬剤です。過量摂取時には、解毒剤である N-アセ</p>

	<p>チルシステイン（NAC）投与の指標としては血清中 APAP 濃度を用います。しかし、APAP の血中濃度を自施設で測定できる救急施設は少なく、迅速な対応が望まれています。大垣市民病院（当院）でも高用量摂取している場合など迅速な対応が求められる場合には、血中濃度測定を行わずに NAC 投与を検討します。目安としては、7.5g または 150mg/kg 以上が一つの基準として挙げられますが、実際はより低用量の場合でも NAC 投与を行う場合も多くあります。本研究では NAC 投与の指標となりうる要素について検討を行います。</p> <p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●対象となる患者さん <p>2014 年 4 月から 2024 年 3 月までに当院救急外来を受診し、薬剤部で APAP 血中濃度測定を行った患者</p> <ul style="list-style-type: none"> ●利用する検体、カルテ情報 <p>カルテ情報：診断名、年齢、性別、身体所見、アセトアミノフェン血中濃度測定結果</p> <p>【提供方法】 自施設</p> <p>【利用範囲】 自施設</p> <p>【情報管理責任者】 新田滉基</p> <p>【拒否機会の保障】 研究対象者の求めに応じて、研究対象者が識別される試料・情報の利用又は他の研究機関への提供を停止する</p>
対象疾患	アセトアミノフェン中毒の患者さん
研究責任者	薬剤部 新田滉基
承認年月	2024 年 4 月

研究課題名	B 型肝炎に対する核酸アナログ製剤投与症例の検討
研究の内容	<p>【目的】</p> <p>B 型肝炎の抗ウイルス薬（核酸アナログ製剤）を長期間内服している患者さんにおいて、薬の効果、副作用、B 型肝炎の進行の抑制効果、肝がん（肝細胞癌）の発生の頻度と危険因子などを、日常の検査データを使って調べます。</p> <p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●対象となる患者さん <p>大垣市民病院で B 型慢性肝炎の診断を受け、核酸アナログ製剤を内服されている患者さん</p> <ul style="list-style-type: none"> ●利用する検体、カルテ情報

	<p>カルテから採血や画像検査（腹部エコー・CT・MRI など）の結果、その後の経過の情報を取り出して解析します。</p> <p>検体：なし</p> <p>カルテ情報：年齢、性別、身長、体重、採血結果（肝機能・栄養状態・ウイルスの検査など）、画像検査結果（腹部エコー・CT・MRI など）、内服開始後の入院の有無</p> <p>【提供方法】</p> <p>核酸アナログ製剤を内服している B 型肝炎の患者さんのカルテから、氏名等の情報を除いてデータを取り出します</p> <p>【利用範囲】 自施設および名古屋市立大学</p> <p>【情報管理責任者】 豊田秀徳</p> <p>【拒否機会の保障】 研究対象者の求めに応じて、研究対象者が識別される試料・情報の利用又は他の研究機関への提供を停止する</p>
対象疾患	B 型慢性肝炎
研究責任者	消化器内科 豊田秀徳
承認年月	2024 年 5 月

研究課題名	X 線 CT 画像における急性期脳梗塞の検出能の評価 —コンピュータ支援診断システムの併用による効果の検証—
研究の内容	<p>【目的】</p> <p>X 線 computed tomography (CT) 検査において、急性期脳梗塞に対するコンピュータ支援診断システム (computer-aided diagnosis : CAD) の有無が観察者の検出能に与える影響を評価する。</p> <p>【方法】</p> <p>●対象となる患者さん</p> <p>西暦 2022 年 8 月 1 日から西暦 2024 年 4 月 30 日の間に急性期脳梗塞疑いで頭部単純 CT と MRI が実施され、かつ機械的血栓回収療法が行われた患者さん。また、同疾患を疑われ急性期脳梗塞を除外された患者さん。</p> <p>●利用する検体、カルテ情報</p> <p>カルテ情報：診断名、年齢、性別、検査結果（画像検査）</p> <p>【提供方法】 自施設</p> <p>【利用範囲】 自施設</p> <p>【情報管理責任者】 久保山 拓実</p> <p>【拒否機会の保障】 研究対象者の求めに応じて、研究対象者が識別される試料・情報の利用又は他の研究機関への提供を停止する</p>

対象疾患	急性期脳梗塞
研究責任者	診療検査科 中央放射線室 久保山拓実
承認年月	2024年5月

研究課題名	肝細胞がんに対するレンバチニブ治療において倦怠感や消化器症状にて減量または治療が中止になる患者の予測因子の特定因子の特定
研究の内容	<p>【目的】</p> <p>レンバチニブ (LEN) は肝細胞癌 (HCC) の治療に使用されるマルチチロシンキナーゼ阻害剤です。LEN は肝細胞癌の標準的な治療薬ですが、有害事象 (AE) の発生率が高いことが LEN 治療の問題点です。これらの AE により治療の中止が必要になる場合があります。</p> <p>最近開発された ALBI score/grade は、客観的な肝予備能の指標であり、予後の予測に有用であると考えられています。Kawamura らは、LEN 治療を受けた肝機能が良好 (mALBI グレード 1 および 2a) かつ肝内標的結節を有する HCC 患者に対しては、治癒目的の後続治療がより有用であるとしています。このように、ALBI score/grade は、予後の予測に有用ですが、副作用の発現を予測しているものではありません。このような中、Enomoto らは、副作用による中止の危険因子を、ロジスティック回帰を使用して分析しました。その結果、ALBI グレード 2 と降圧薬の不使用は、有害事象による中止の独立した要因であることが示されました。しかし、この報告の症例数は限られています。</p> <p>今回我々は、減量や治療延期となる因子に着目しました。臨床においては、倦怠感や食欲不振などの消化器症状により、減量や治療延期となることが多いです。倦怠感や食欲不振などの消化器症状は、患者の QOL を低下させ治療継続に影響を及ぼすことが考えられるからです。減量や治療延期となるリスク因子が分かれば、患者指導や医師への処方提案に活かすことができます。</p> <p>本研究の目的は、肝細胞がんに対するレンバチニブ治療において倦怠感や消化器症状にて減量または治療が中止になる患者の予測因子を特定することです。</p> <p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●対象となる患者さん 大垣市民病院にて、レンバチニブが投与された肝細胞がん患者さん ●利用する検体、カルテ情報 検体：なし

	カルテ情報：診断名、年齢、性別、身体所見、検査結果（血液検査） 【提供方法】自施設 【利用範囲】自施設 【情報管理責任者】木村美智男 【拒否機会の保障】研究対象者の求めに応じて、研究対象者が識別される試料・情報の利用又は他の研究機関への提供を停止する
対象疾患	肝細胞がん
研究責任者	薬剤部 木村美智男
承認年月	2024年5月

研究課題名	オレキシン受容体拮抗薬服用患者における転倒のリスク因子の調査
研究の内容	<p>【目的】</p> <p>ベルソムラ（スボレキサント）とデエビゴ（レンボレキサント）服用患者さんの転倒リスク因子を探索する</p> <p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●対象となる患者さん <p>西暦2022年1月1日から2023年12月31日の間にベルソムラかデエビゴを服用した入院患者さん</p> <ul style="list-style-type: none"> ●利用する検体、カルテ情報 <p>カルテ情報：年齢、性別、BMI、既往歴（転倒、せん妄、脳血管疾患）、併用薬（抗認知症薬、抗うつ薬、抗精神病薬、ベンゾジアゼピン、非ベンゾジアゼピン、抗パーキンソン病薬、NSAIDs、降圧薬、糖尿病治療薬）、併存疾患（高血圧、糖尿病、心不全、うつ、統合失調症、パーキンソン病、認知症）、転倒アセスメントスコア、転倒の有無</p> <p>【提供方法】自施設 【利用範囲】自施設 【情報管理責任者】森光輝 【拒否機会の保障】研究対象者の求めに応じて、研究対象者が識別される試料・情報の利用又は他の研究機関への提供を停止する</p>
対象疾患	不眠症
研究責任者	薬剤部 森光輝
承認年月	2024年5月

研究課題名	終末期における抗菌薬適正使用支援の現状評価
-------	-----------------------

研究の内容	<p>【目的】 薬の耐性を持つ細菌の拡散を防ぐため、抗菌薬の適切な使用を促進する取り組みが国際的に行われています。通常、抗菌薬は感染症の治療に使用されますが、終末期の患者さんでは、症状緩和のために抗菌薬を用いることがあり、その割合は約44%にも上ります。このような背景から、終末期の患者さんへの適切な抗菌薬の使用は非常に重要です。本研究では、当院で行っている全ての注射用抗菌薬に関する薬剤師の取り組みを通じて、終末期の患者さんへの対応を調べ、抗菌薬の適切な使用をさらに進めることを目指します。</p> <p>【方法】</p> <p>●対象となる患者さん 西暦2023年1月1日から西暦2023年12月31日までの間に大垣市民病院で死亡し、死亡する14日以内に注射用抗菌薬を使用した患者さん</p> <p>●利用する検体、カルテ情報 カルテ情報：</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 臨床所見（性別、年齢、併存疾患、心・肺・腎・肝の重症度、認知症・悪性腫瘍の重症度） ② 血液所見（総ビリルビン値、アルブミン値、クレアチニン値、PT-INR、eGFR、） ③ 抗菌薬使用歴、使用期間、使用目的 ④ 治療方針（看取りの方針か否かなど）と治療内容（昇圧剤投与、解熱剤投与、麻薬投与、輸血投与） <p>【提供方法】 自施設 【利用範囲】 自施設 【情報管理責任者】 大橋健吾 【拒否機会の保障】 研究対象者の求めに応じて、研究対象者が識別される試料・情報の利用又は他の研究機関への提供を停止する</p>
対象疾患	特定しない
研究責任者	薬剤部 大橋健吾
承認年月	2024年5月

研究課題名	薬剤師による中毒対応24時間体制の状況とその有用性の評価
研究の内容	<p>【目的】 薬剤師による中毒対応24時間体制についてアセトアミノフェン中毒に着目し、有用性について評価します。</p>

	<p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●対象となる患者さん アセトアミノフェン中毒の患者さんで、2006年1月～2024年3月の間にアセトアミノフェンの血中濃度を測定した患者さん ●利用する検体、カルテ情報 カルテ情報：年齢、アセトアミノフェン血中濃度、アセトアミノフェン服用量、アセトアミノフェン服用時間、救急受診時間、アセチルシステイン処方の有無 <p>【提供方法】 自施設 【利用範囲】 自施設 【情報管理責任者】 高橋侑杜 【拒否機会の保障】 研究対象者の求めに応じて、研究対象者が識別される試料・情報の利用又は他の研究機関への提供を停止する</p>
対象疾患	アセトアミノフェン中毒
研究責任者	薬剤部 高橋侑杜
承認年月	2024年5月

研究課題名	電子カルテ情報を利用した在庫管理システム構築の取り組み
研究の内容	<p>【目的】 各薬品の処方実績や次回処方を予測するシステムの構築とその有効性の評価。電子カルテの処方情報・予約情報より各薬品の処方実績や次回処方を予測するシステムを構築した。今回、システムの有効性を評価するため欠品・急配および薬価改定での損失軽減効果を調査した。</p> <p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●対象となる患者さん 西暦2023年8月1日から西暦2024年5月31日までに大垣市民病院の処方を受けた全ての患者さん ●利用する検体、カルテ情報 カルテ情報：診療科、処方薬剤、処方日数、次回予約日 <p>【提供方法】 自施設 【利用範囲】 自施設 【情報管理責任者】 地道大賀 【拒否機会の保障】 研究対象者の求めに応じて、研究対象者が識別される試料・情報の利用を停止する</p>
対象疾患	当院で処方を受けた全患者

研究責任者	薬剤部 地道大賀
承認年月	2024年5月

研究課題名	糖尿病腎症に対するフィネレノンの有効性
研究の内容	<p>【目的】 フィネレノンを使用することで腎症進展抑制につながるかどうかを検討する.</p> <p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●対象となる患者さん 2型糖尿病の患者さんで、西暦2023年4月1日から西暦2024年5月31日までに大垣市民病院糖尿病・腎臓内科へ受診し、新規にフィネレノンの投与を受けた方. ●利用する検体、カルテ情報 検体：血液検査、尿検査、(診療または他の研究で使用した余りの検体で保管することに以前同意をいただいたもの) カルテ情報：診療記録より年齢、性別、身体所見、検査結果(血液検査、尿検査、画像検査、その他) <p>【提供方法】 自施設 【利用範囲】 自施設 【情報管理責任者】 藤谷 淳 【拒否機会の保障】 研究対象者の求めに応じて、研究対象者が識別される試料・情報の利用又は他の研究機関への提供を停止する</p>
対象疾患	微量アルブミン尿以上の腎症を有する2型糖尿病
研究責任者	藤谷 淳
承認年月	2024年6月

研究課題名	超音波装置 ARIETTA 850 における肝腫瘍に対する DeepInsight 技術の視覚的評価
研究の内容	<p>【目的】 DeepInsight(以下 DI)技術は超音波画像の画質を大幅に向上させるノイズ除去技術である。これは AI 技術を活用して超音波信号と電気ノイズを区別し、診断に必要な信号を選択的に抽出する。その結果、電気ノイズに埋もれていた微細な組織や複雑な組織構造をより明瞭に表現できるため、肝臓の嚢胞性病変、充実性病変に関して DI を使用した画像(あり)と使用していない画像(なし)を視覚的に評価する。</p>

	<p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●対象となる患者さん <p>西暦 2023 年 10 月 1 日から西暦 2024 年 5 月 31 日の間に肝臓の嚢胞性病変、充実性病変の対し DI ありとなしの画像を同時に撮像した患者さん</p> <ul style="list-style-type: none"> ●利用する検体、カルテ情報 <p>カルテ情報：診断名、年齢、性別、検査結果（画像検査）</p> <p>【提供方法】 自施設</p> <p>【利用範囲】 自施設</p> <p>【情報管理責任者】 高橋 健一</p> <p>【拒否機会の保障】 研究対象者の求めに応じて、研究対象者が識別される試料・情報の利用又は他の研究機関への提供を停止する</p>
対象疾患	肝臓の嚢胞性病変および充実性病変
研究責任者	診療検査科 形態診断室 高橋 健一
承認年月	2024 年 6 月

研究課題名	左室自由壁破裂に対する sutureless repair の適応と有効性
研究の内容	<p>【目的】</p> <p>左心室自由壁破裂は心筋梗塞後の重大合併症の 1 つです。近年、縫合糸を用いない修復方法に左室心筋壊死部分の壁応力軽減効果の可能性が指摘されており、縫合糸を用いる修復方法より早期死亡率が改善すると報告されています。本研究では左心室自由壁破裂の外科的修復術を受けた患者を後ろ向きに観察し、術式と手術成績の関係を解析します。</p> <p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●対象となる患者さん <p>左心室自由壁破裂の患者さんで、西暦 2007 年 4 月 1 日から西暦 2024 年 3 月 1 日の間に左心室自由壁破裂修復術を受けた方</p> <ul style="list-style-type: none"> ●利用する検体、カルテ情報 <p>検体：病理組織</p> <p>カルテ情報：、診断名、年齢、性別、身長体重、身体所見、検査結果（血液検査、X 線検査、心電図検査、ABI 検査、SPP 検査、超音波検査、透視 X 線検査、CT 検査）、手術記録など</p> <p>【提供方法】 自施設</p> <p>【利用範囲】 自施設</p> <p>【情報管理責任者】 山川将人</p> <p>【拒否機会の保障】 研究対象者の求めに応じて、研究対象者が識別される試料・情報の利用又は他の研究機関への提供を停止する</p>

対象疾患	左心室自由壁破裂
研究責任者	胸部外科 山川将人
承認年月	2024年7月

研究課題名	小児期発症の尿崩症の検討
研究の内容	<p>【目的】</p> <p>尿崩症は腎臓での水の再吸収障害により発症する疾患です。尿中に水分が過剰に失われることにより、飲水量と尿量が増加します。尿崩症は様々な原因で発症し、また尿崩症に似た症状を示す心因性多飲多尿などの疾患もあり、しばしば診断が困難となります。本研究では、尿崩症患者さんの原因、症状、治療法、治療期間などを検討し、今後の検査法や治療法に役立てます。</p> <p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●対象となる患者さん 西暦2018年7月1日から西暦2024年6月30日の間に尿崩症と診断された方 ●利用する検体、カルテ情報 検体：なし カルテ情報：診断名、年齢、性別、身体所見、検査結果、治療法、治療期間。 <p>【提供方法】 自施設 【利用範囲】 自施設 【情報管理責任者】 小島 大英 【拒否機会の保障】 研究対象者の求めに応じて、研究対象者が識別される試料・情報の利用又は他の研究機関への提供を停止する</p>
対象疾患	尿崩症
研究責任者	小児科 小島大英
承認年月	2024年7月

研究課題名	小児期神経発達症に伴う入眠困難に対するメラトニンの有用性に関する検討
研究の内容	<p>【目的】</p> <p>注意欠如・多動症（ADHD）や自閉スペクトラム症（ASD）などを含む神経発達症は、睡眠障害を合併するケースが多く、日常生活に大きな影響を及ぼしています。従来、小児期の神経発達症に伴う入</p>

	<p>眠困難に対する治療薬は承認されていませんでしたが、2020年3月にメラトニンが承認されました。本研究では、小児期の神経発達症に伴う入眠困難に対するメラトニンの有用性を検討し、今後の治療法に役立てます。</p> <p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●対象となる患者さん 西暦2023年7月1日から西暦2024年6月30日の間にメラトニンを処方された15歳以下の患者さん ●利用する検体、カルテ情報 検体：なし カルテ情報：診断名、年齢、性別、身体所見、検査結果、治療法、治療期間。 <p>【提供方法】 自施設 【利用範囲】 自施設 【情報管理責任者】 藤井秀比古 金谷和樹 【拒否機会の保障】 研究対象者の求めに応じて、研究対象者が識別される試料・情報の利用又は他の研究機関への提供を停止する</p>
対象疾患	15歳以下の神経発達症
研究責任者	小児科 藤井秀比古 金谷和樹
承認年月	2024年7月

研究課題名	レンボレキサント推進活動が睡眠薬・抗精神病薬に与えた影響：分割時系列解析研究
研究の内容	<p>【目的】 デエビゴ（レンボレキサント）服用患者さんやその他睡眠薬、抗精神病薬の処方患者数を調査する</p> <p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●対象となる患者さん 西暦2021年8月1日から2024年3月31日の間にデエビゴ、ゾルピデム、エスゾピクロン（ルネスタ）、クエチアピン（セロクエル）、リスパドロン（リスパダール）を服用した入院患者さん ●利用する検体、カルテ情報 カルテ情報：薬剤の処方日、処方区分 <p>【提供方法】 自施設 【利用範囲】 自施設 【情報管理責任者】 森光輝</p>

	【拒否機会の保障】 研究対象者の求めに応じて、研究対象者が識別される試料・情報の利用又は他の研究機関への提供を停止する
対象疾患	不眠症
研究責任者	薬剤部 森光輝
承認年月	2024年7月

研究課題名	大垣市民病院における経静脈的脂肪投与の実態調査
研究の内容	<p>【目的】 エネフリード®輸液の使用状況を調査し、エネフリード採用以前の脂肪乳剤使用状況と比較することで、経静脈脂肪投与の変遷を検討する。</p> <p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●対象となる患者さん <ul style="list-style-type: none"> ・西暦2006年1月1日から西暦2024年6月30日の間に脂肪乳剤を投与された方 および、 <ul style="list-style-type: none"> ・西暦2023年5月1日から西暦2024年6月30日の間にエネフリード®輸液を投与された方 ●利用する検体、カルテ情報 カルテ情報：投与輸液製剤名とその投与量・投与速度、診療科名・診断名、年齢、性別、身体所見、検査結果（血液検査、画像検査） <p>【提供方法】 自施設 【利用範囲】 自施設 【情報管理責任者】 中嶋めぐみ 【拒否機会の保障】 研究対象者の求めに応じて、研究対象者が識別される試料・情報の利用又は他の研究機関への提供を停止する</p>
対象疾患	点滴による栄養の投与を要する状態
研究責任者	薬剤部 中嶋めぐみ
承認年月	2024年7月

研究課題名	経カテーテル左心耳閉鎖手術を他のカテーテル治療と同時施行した際の有効性と安全性の検討
研究の内容	<p>【目的】 経カテーテル左心耳閉鎖術を他の構造的な心疾患と同時に行った際の有効性と安全性を検討すること。</p> <p>【方法】</p>

	<p>●対象となる患者さん</p> <p>2019年4月から2024年8月までに経カテーテル左心耳閉鎖術を行ったすべての方。</p> <p>●利用する検体、カルテ情報</p> <p>検体：なし（診療または他の研究で使用した余りの検体で保管することに以前同意をいただいたもの）</p> <p>カルテ情報：診断名、年齢、性別、身体所見、検査結果（血液検査、画像検査、心電図検査）、イベント発生日（入院、死亡）</p> <p>【提供方法】電子症例報告書への入力</p> <p>【利用範囲】自施設</p> <p>【情報管理責任者】循環器内科 森島逸郎</p> <p>【拒否機会の保障】研究対象者の求めに応じて、研究対象者が識別される試料・情報の利用又は他の研究機関への提供を停止する</p>
対象疾患	心房細動
研究責任者	循環器内科 渡邊直樹
承認年月	2024年9月

研究課題名	TAVI患者の予後における皮下脂肪・内臓脂肪の関連性の検討
研究の内容	<p>【目的】</p> <p>TAVI治療を受けた患者の予後に対する皮下脂肪・内臓脂肪の関連性を調べること。</p> <p>【方法】</p> <p>●対象となる患者さん</p> <p>当院でTAVI治療を行なったすべての方。</p> <p>●利用する検体、カルテ情報</p> <p>検体：なし（診療または他の研究で使用した余りの検体で保管することに以前同意をいただいたもの）</p> <p>カルテ情報：診断名、年齢、性別、身体所見、検査結果（血液検査、画像検査、心電図検査）、イベント発生日（入院、死亡）</p> <p>【提供方法】電子症例報告書への入力</p> <p>【利用範囲】自施設</p> <p>【情報管理責任者】循環器内科 森島逸郎</p> <p>【拒否機会の保障】研究対象者の求めに応じて、研究対象者が識別される試料・情報の利用又は他の研究機関への提供を停止する</p>
対象疾患	大動脈弁狭窄症

研究責任者	循環器内科 渡邊直樹
承認年月	2024年9月

研究課題名	軽度心機能低下患者に対する心保護薬投与の有効性の検討
研究の内容	<p>【目的】 軽度心機能が低下した患者に対する心保護薬投与の有効性を検討すること。</p> <p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●対象となる患者さん 2019年4月から2023年7月の間に、心不全入院をし、退院時のLVEFが40-50%の患者さん ●利用する検体、カルテ情報 検体：なし（診療または他の研究で使用した余りの検体で保管することに以前同意をいただいたもの） カルテ情報：診断名、年齢、性別、身体所見、検査結果（血液検査、画像検査、心電図検査）、イベント発生日（入院、死亡） <p>【提供方法】 自施設（院内データベースへの登録）</p> <p>【利用範囲】 自施設</p> <p>【情報管理責任者】 循環器内科 森島逸郎</p> <p>【拒否機会の保障】 研究対象者の求めに応じて、研究対象者が識別される試料・情報の利用又は他の研究機関への提供を停止する</p>
対象疾患	心房細動
研究責任者	循環器内科 渡邊直樹
承認年月	2024年9月

研究課題名	遠隔モニタリングで検出された心房細動に対し、カテーテルアブレーションによる超早期介入を行うことで、心房細動進行を抑止しうるかを検討する
研究の内容	<p>【目的】 デバイス留置患者さんに対して、遠隔モニタリングによる患者管理が推奨されています。しかしながら、実際に検知された心房細動に対する具体的な対応、どの時点でカテーテルアブレーションを行うことが望ましいかに関しては、まだ明瞭な指針が存在しません。遠隔モニタリングで検出された心房細動に対して、超早期にカテーテルアブレーションを行うことで、心房細動進行を抑止できるかを検討します。</p>

	<p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●対象となる患者さん 2020年6月から2023年6月までに心房細動バーデンが50%もしくは12時間以上を超過したデバイス植え込み患者さん ●利用する検体、カルテ情報 検体：なし カルテ情報：診断名、年齢、性別、身体所見、既往歴、検査結果（血液検査、画像検査、心電図検査、心エコー検査、アブレーション治療に関する手技内容） <p>【提供方法】 自施設 【利用範囲】 自施設 【情報管理責任者】 森島 逸郎 【拒否機会の保障】 研究対象者の求めに応じて、研究対象者が識別される試料・情報の利用又は他の研究機関への提供を停止する</p>
対象疾患	心房細動に対してアブレーション施行した患者
研究責任者	循環器内科 森島逸郎
承認年月	2024年9月

研究課題名	総合病院小児科病棟における心理職の役割の検討
研究の内容	<p>【目的】 当院小児科では、2011年度より臨床心理士が入院患者さんに対して心理アセスメントおよび心理面接を行い、入院治療の支援を行ってきました。全国的にみても、小児科病棟で患者さんへの心理的支援を行う心理職は増えてきています。しかし、小児科病棟における心理支援の有効性や役割については未だまとまった報告はありません。本研究では、当院で小児科所属の心理職がかかわった患者さんの病名、心理支援の種類、心理支援の回数などを検討し、今後のより良い心理援助に役立てます。</p> <p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●対象となる患者さん 西暦2011年4月1日から西暦2024年3月31日の間に入院し、当院小児科所属の心理職による心理面接及び心理検査を受けられた方 ●利用する検体、カルテ情報 検体：なし カルテ情報：診断名、年齢、性別、身体所見、臨床経過、心理面

	<p>接の経過、検査結果、治療法、治療期間、予後。</p> <p>【提供方法】自施設</p> <p>【利用範囲】自施設</p> <p>【情報管理責任者】藤井 秀比古</p> <p>【拒否機会の保障】研究対象者の求めに応じて、研究対象者が識別される試料・情報の利用又は他の研究機関への提供を停止する</p>
対象疾患	当院に入院し、小児科所属の心理職による心理面接及び心理検査を受けられた方
研究責任者	小児科 藤井秀比古
承認年月	2024年 9月

研究課題名	脂肪肝半定量 (Hamaguchi score) の脂肪肝診断精度に関する検討
研究の内容	<p>【目的】</p> <p>最近、「超音波減衰法検査法」と呼ばれる定量的超音波検査 (quantitative US: QUS) の一部が医療保険に収載され、この手法が肝脂肪量の定量に使用されるようになりました。しかし、実際の臨床現場では依然として超音波画像による肝脂肪量の半定量的評価が多く施行されています。</p> <p>本研究の目的は、肝脂肪量定量の参照基準として、MRI-derived proton density fat fraction (PDFF) を使用し、超音波画像による肝脂肪量診断精度を検討します。</p> <p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●対象となる患者さん <p>2021年4月から2024年3月までの3年間にMRI-PDFFの3ヶ月以内に超音波画像による脂肪肝診断(Hamaguchi score:HS) が施行された方</p> <ul style="list-style-type: none"> ●利用する検体、カルテ情報 <p>カルテ情報:年齢、性別、身長、体重、検査結果(血液検査、画像検査)</p> <p>【提供方法】自施設</p> <p>【利用範囲】自施設</p> <p>【情報管理責任者】北川 博文</p> <p>【拒否機会の保障】研究対象者の求めに応じて、研究対象者が識別される試料・情報の利用又は他の研究機関への提供を停止する</p>
対象疾患	脂肪肝
研究責任者	診療検査科 形態診断室 北川 博文
承認年月	2024年 9月

研究課題名	経カテーテル大動脈弁留置術における術前 CT と術中の perpendicular view の角度誤差に関する検討
研究の内容	<p>【目的】 経カテーテル大動脈弁留置術において術前 CT と術中 angiography での体位の違いが perpendicular view の角度に与える影響について評価します。</p> <p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●対象となる患者さん 西暦 2020 年 4 月 1 日から西暦 2024 年 3 月 31 日の間に経カテーテル大動脈弁留置術を受けた患者さん ●利用する検体、カルテ情報 カルテ情報：検査結果（画像検査） <p>【提供方法】 自施設 【利用範囲】 自施設 【情報管理責任者】 梅本 伸 【拒否機会の保障】 研究対象者の求めに応じて、研究対象者が識別される試料・情報の利用又は他の研究機関への提供を停止する</p>
対象疾患	大動脈弁狭窄症
研究責任者	診療検査科 中央放射線室 梅本伸
承認年月	2024 年 9 月

研究課題名	吸気および呼気息止めによる腹部骨盤 CT の被ばく線量および内臓脂肪量測定値の比較
研究の内容	<p>【目的】 吸気息止めと呼気息止めによる腹部骨盤 CT における被ばく線量および脂肪量測定値を比較する。</p> <p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●対象となる患者さん 西暦 2022 年 9 月 1 日から西暦 2023 年 8 月 30 日の間に一度以上、かつ、西暦 2023 年 9 月 1 日から西暦 2024 年 7 月 31 日の間に一度以上、腹部単純 CT 検査を実施した方 ●利用する検体、カルテ情報 検体：特になし カルテ情報：身長、体重、検査結果（画像情報） <p>【提供方法】 自施設</p>

	<p>【利用範囲】 自施設</p> <p>【情報管理責任者】 浦崎 昇平</p> <p>【拒否機会の保障】 研究対象者の求めに応じて、研究対象者が識別される試料・情報の利用又は他の研究機関への提供を停止する</p>
対象疾患	特になし
研究責任者	診療検査科 中央放射線室 浦崎昇平
承認年月	2024 年 9 月

研究課題名	前立腺全摘術後の救済放射線治療についての検討
研究の内容	<p>【目的】</p> <p>前立腺癌術後再発に対する救済放射線療法の治療成績を検討する</p> <p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●対象となる患者さん <p>前立腺癌の患者さんで、西暦 2014 年 5 月 1 日から西暦 2023 年 9 月 30 日の間に前立腺全摘術を受けた方で、術後再発に対し放射線治療を受けた方</p> <ul style="list-style-type: none"> ●利用する検体、カルテ情報 <p>カルテ情報：年齢、身長、体重、BMI、臨床病期、NCCN のリスク分類、腫瘍マーカー（PSA 値）、病理学的所見、画像所見（CT、MRI、骨シンチ）、放射線量、内分泌治療</p> <p>【提供方法】 自施設</p> <p>【利用範囲】 自施設</p> <p>【情報管理責任者】 泌尿器科 加藤成一</p> <p>【拒否機会の保障】 研究対象者の求めに応じて、研究対象者が識別される試料・情報の利用又は他の研究機関への提供を停止する</p>
対象疾患	前立腺癌
研究責任者	泌尿器科 加藤成一
承認年月	2024 年 9 月

研究課題名	経口抗ウイルス薬（direct-acting antivirals：DAA）によりウイルス排除を達成した C 型肝炎ウイルス（HCV）感染を合併した透析施行症例の予後の検討：透析施行症例における HCV 排除のベネフィットの検証
研究の内容	<p>【目的】</p> <p>C 型肝炎ウイルスに持続感染している透析患者に対する DAA 治療は、一般の C 型肝炎患者に対する DAA 治療と同等の HCV 排除率が高いことが確</p>

	<p>認されていますが、発がんの予防や生存率も同様であるかどうかは明らかになっていません。この研究では HCV 感染透析患者への抗ウイルス療法治療により、予後の改善がみられるかどうかを検証することを目的としています。</p> <p>【方法】</p> <p>●対象となる患者さん</p> <p>透析患者さんのうち、C 型肝炎ウイルスに感染が確認され、2014 年 1 月～2021 年 10 月に経口薬治療によりウイルス駆除を達成した 20 歳以上の患者さん。</p> <p>●利用する検体、カルテ情報</p> <p>カルテから採血や画像検査（腹部エコー・CT・MRI など）の結果、その後の経過の情報を取り出して解析します。</p> <p>検体：なし</p> <p>カルテ情報：治療開始日、年齢、性別、HCV genotype、血液検査（AST, ALT, 血小板, BUN, Cre, ALB, T-Bil）、肝疾患の既往歴（肝硬変の有無、肝臓の有無）、肝臓定期検査の有無、転帰（肝臓の発生・生死）です。個人を特定可能な情報は解析に用いません。</p> <p>【提供方法】患者さんのカルテから、氏名等の情報を除いてデータを取り出します。</p> <p>【利用範囲】 自施設および広島大学</p> <p>【情報管理責任者】 豊田秀徳</p> <p>【拒否機会の保障】 研究対象者の求めに応じて、研究対象者が識別される試料・情報の利用又は他の研究機関への提供を停止する</p>
対象疾患	C 型肝炎感染のあった透析患者さん（治療後）
研究責任者	消化器内科 豊田秀徳
承認年月	2024 年 10 月

研究課題名	High Power Short Duration を用いた上大静脈隔離の有効性と安全性の検討
研究の内容	<p>【目的】</p> <p>High Power Short Duration を用いた上大静脈隔離の有効性と安全性を従来の方法と比較し明らかにすること。</p> <p>【方法】</p> <p>●対象となる患者さん</p> <p>2021 年 12 月から 2024 年 2 月までに高周波を用いて上大静脈隔離を行</p>

	<p>ったすべての患者さん。</p> <p>●利用する検体、カルテ情報</p> <p>検体：なし</p> <p>カルテ情報：診断名、年齢、性別、身体所見、検査結果(血液検査、画像検査、心電図検査)、カテーテルアブレーション時の情報(高周波通電回数、初回1周隔離成功の有無、隔離に要した時間、合併症の有無等)</p> <p>【提供方法】自施設</p> <p>【利用範囲】自施設</p> <p>【情報管理責任者】循環器内科 森島逸郎</p> <p>【拒否機会の保障】研究対象者の求めに応じて、研究対象者が識別される試料・情報の利用又は他の研究機関への提供を停止する</p>
対象疾患	心房細動
研究責任者	循環器内科 森島逸郎
承認年月	2024年10月

研究課題名	MASLD患者における心臓形態、肺高血圧と予後の解析
研究の内容	<p>【目的】</p> <p>検診で代謝性機能不全関連脂肪性肝疾患(MASLD)と診断された患者において、その後の冠動脈疾患や死亡などの予後との関係性を評価する。</p> <p>【方法】</p> <p>●対象となる患者さん</p> <p>西暦2006年1月1日から西暦2015年12月31日までに大垣市民病院の検診に正常肝&MASLDと診断された患者</p> <p>●利用する検体、カルテ情報</p> <p>検体：なし</p> <p>カルテ情報：診断名、年齢、性別、身体所見、既往歴、検査結果(血液検査、画像検査、心電図検査、心エコー検査、冠動脈造影所見、冠動脈形成術に使用した物品)、負荷シンチ検査所見、死亡の有無、カテーテル治療の有無</p> <p>【提供方法】自施設</p> <p>【利用範囲】自施設</p> <p>【情報管理責任者】荒尾 嘉人、森島 逸郎</p> <p>【拒否機会の保障】研究対象者の求めに応じて、研究対象者が識別される試料・情報の利用又は他の研究機関への提供を停止する</p>
対象疾患	正常肝&代謝性機能不全関連脂肪性肝疾患を有する患者

研究責任者	循環器内科 柴田直紀、森島逸郎
承認年月	2024年10月

研究課題名	透析患者における inclisiran の有効性の検討
研究の内容	<p>【目的】 透析患者における、inclisiran の LDL 低下効果を含めた有効性、安全性を評価する。</p> <p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●対象となる患者さん 西暦 2023 年 12 月 1 日から西暦 2024 年 12 月 31 日までに大垣市民病院にて冠動脈狭窄症に対して PCI を試行した透析患者 ●利用する検体、カルテ情報 検体：なし カルテ情報：診断名、年齢、性別、身体所見、既往歴、検査結果（血液検査、画像検査、心電図検査、心エコー検査、冠動脈造影所見、冠動脈形成術に使用した物品）、死亡の有無、カテーテル治療の有無 <p>【提供方法】 自施設 【利用範囲】 自施設 【情報管理責任者】 柴田直紀、森島逸郎 【拒否機会の保障】 研究対象者の求めに応じて、研究対象者が識別される試料・情報の利用又は他の研究機関への提供を停止する</p>
対象疾患	冠動脈狭窄を有し、経皮的冠動脈インターベンションを試行した透析患者
研究責任者	循環器内科 柴田直紀、森島逸郎
承認年月	2024年10月

研究課題名	救急病棟での褥瘡ラウンドの定着化に向けた取り組み 統一したケアを目指して
研究の内容	<p>【目的】 看護師主体の褥瘡ラウンドの定着とその内容を看護計画で情報共有し、統一した看護を実施することで褥瘡発生件数を減少させることを目的とする。</p> <p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●対象となる患者さん 西暦 2024 年 8 月 1 日から西暦 2024 年 9 月 30 日までに大垣市民病院

	<p>救急病棟に入室した日常生活自立度Cランクの患者</p> <p>●利用する検体、カルテ情報</p> <p>検体：なし</p> <p>カルテ情報：年齢、診断名、看護計画、看護記録、日常生活自立度 採血データ、栄養評価</p> <p>【提供方法】自施設</p> <p>【利用範囲】自施設</p> <p>【情報管理責任者】子安奈緒子</p> <p>【拒否機会の保障】研究対象者の求めに応じて、研究対象者が識別される試料・情報の利用又は他の研究機関への提供を停止する</p>
対象疾患	なし
研究責任者	看護部 子安奈緒子
承認年月	2024年10月

研究課題名	Nivairo NPPV マスクの有用性に関する報告
研究の内容	<p>【目的】</p> <p>NPPV（マスクによる人工呼吸器）を使用する時のマスクは、患者さんに合わせて選択してきましたが、エアリークを防ぎながら皮膚障害予防をするのは難しく、保護材やチューブパッドなどを使用しながらリークを減らす工夫が必要でした。今回、特徴的な構造を持つ Nivairo マスクを導入し、このマスクにより皮膚トラブルを減少させることができるのか、従来マスクと比較しました。</p> <p>【方法】</p> <p>●対象となる患者さん</p> <p>西暦 2019 年 1 月 1 日から西暦 2024 年 7 月 31 日の間に NPPV を使用された方</p> <p>●利用する検体、カルテ情報</p> <p>カルテ情報：マスク種類 皮膚障害有無</p> <p>【提供方法】自施設</p> <p>【利用範囲】自施設</p> <p>【情報管理責任者】青山佳代</p> <p>【拒否機会の保障】研究対象者の求めに応じて、研究対象者が識別される試料・情報の利用又は他の研究機関への提供を停止する</p>
対象疾患	NPPV 使用患者
研究責任者	臨床工学技術科 青山佳代

承認年月	2024 年 10 月
------	-------------

研究課題名	MRI-PDFF における ROI 設定方法に関する基礎的検討
研究の内容	<p>【目的】</p> <p>MRI-PDFF (Magnetic resonance imaging-proton density fat fraction) において、ROI (Region of interest) 設定方法による計測者間誤差および、ROI 数と計測誤差の関係を把握することです。</p> <p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●対象となる患者さん <p>2021/8/1～2022/3/31 に肝臓の MRI-PDFF を撮影した方。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●利用する検体、カルテ情報 <p>検体：なし</p> <p>カルテ情報：年齢、性別、検査結果（画像検査）</p> <p>【提供方法】 自施設</p> <p>【利用範囲】 自施設</p> <p>【情報管理責任者】 診療検査科 松岡洋慶</p> <p>【拒否機会の保障】 研究対象者の求めに応じて、研究対象者が識別される試料・情報の利用又は他の研究機関への提供を停止する</p>
対象疾患	肝臓の MRI-PDFF を撮影した患者さん
研究責任者	診療検査科 松岡洋慶
承認年月	2024 年 10 月

研究課題名	脂肪性肝疾患患者における定量的 MRI と肝生検の長期予後予測に関する研究
研究の内容	<p>【目的】</p> <p>脂肪性肝疾患 (SLD) は現在肝硬変の主な原因の一つであり患者数は増加しています。脂肪肝の患者のうちどういう人が肝硬変や肝臓がんになつたりするかは不明ですが、肝臓の線維化や脂肪化の程度が関係していると言われてしています。この評価には今まで肝生検という肝臓の細胞をとって調べる検査がスタンダードとされてきましたが、最近では MRI を用いた肝硬度・肝脂肪量測定で肝生検以上の診断ができることが報告されています。今回の研究では、脂肪肝の患者を対象に MRI と肝生検でどちらがよく予測ができるかの比較検討を行います。</p>

	<p>【方法】</p> <p>●対象となる患者さん 大垣市民病院で肝生検と MRI 検査の両方を受けた患者さん。</p> <p>●利用する対象 カルテ情報：年齢、性別、身長、体重、採血結果、MRI 結果、生検結果、その後の経過などの情報 検体：なし</p> <p>【提供方法】 カルテから上記の情報を取り出し匿名化を行い提供します</p> <p>【利用範囲】 自施設および岐阜大学消化器内科</p> <p>【情報管理責任者】 豊田秀徳</p> <p>【拒否機会の保障】 研究対象者の求めに応じて、情報の提供を停止します。</p>
対象疾患	脂肪性肝疾患
研究責任者	消化器内科 豊田秀徳
承認年月	2024 年 11 月

研究課題名	抗ミトコンドリア抗体と心機能に関する臨床研究
研究の内容	<p>【目的】 抗ミトコンドリア抗体と心機能に関する臨床研究。特に抗ミトコンドリア抗体と洞不全症候群や右房低電位に関する解析。抗ミトコンドリア抗体と心機能の関係性を明らかにすることで、抗ミトコンドリア抗体陽性患者の転帰の予測や、治療介入の可能性の提示。【方法】</p> <p>●対象となる患者 2008 年 11 月から 2024 年 5 月までに抗ミトコンドリア抗体で検査された患者。</p> <p>●利用する検体、カルテ情報 臨床所見（年齢、性別、身長、体重、病歴に関する情報）BMI 値 血液所見（抗ミトコンドリア抗体、Cre、AST、ALT、γ-GTP、CRP）など 冠動脈造影所見、核医学検査所見、PET-CT、CMR、アブレーション治療中の所見。 内服治療（DOAC、ワーファリン、抗血小板薬、RAS 系阻害薬、β ブロッカー、スタチンなど）</p>

	<p>【提供方法】自施設</p> <p>【利用範囲】自施設</p> <p>【情報管理責任者】森島 逸郎</p> <p>【拒否機会の保障】研究対象者の求めに応じて、研究対象者が識別される試料・情報の利用又は他の研究機関への提供を停止する</p>
対象疾患	抗ミトコンドリア抗体で検査された患者
研究責任者	循環器内科 森島 逸郎
承認年月	2024年11月

研究課題名	マイコプラズマ肺炎の臨床的検討
研究の内容	<p>【目的】</p> <p>マイコプラズマ肺炎は、<i>Mycoplasma pneumoniae</i> という細菌に感染することによって起こる呼吸器感染症です。</p> <p>治療は第一選択としてマクロライド系抗生剤が使用されますが、耐性菌の増加が問題となっています。</p> <p>マイコプラズマ核酸検出検査によって、マイコプラズマ感染の有無および、マクロライド耐性の有無が判定可能であるため、地域のマイコプラズマ肺炎に対する抗生剤適正利用について検討します。</p> <p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●対象となる患者さん <p>西暦2023年1月1日から西暦2024年10月31日の間に大垣市民病院でマイコプラズマ核酸検出検査を受けた15歳以下の方</p> <ul style="list-style-type: none"> ●利用する検体、カルテ情報 <p>検体：なし</p> <p>カルテ情報：診断名、年齢、性別、身体所見、検査結果（血液検査、胸部X線検査、マイコプラズマ核酸検出検査）、治療法、治療期間。</p> <p>【提供方法】自施設</p> <p>【利用範囲】自施設</p> <p>【情報管理責任者】藤井 秀比古</p> <p>【拒否機会の保障】研究対象者の求めに応じて、研究対象者が識別される試料・情報の利用又は他の研究機関への提供を停止する</p>
対象疾患	マイコプラズマ肺炎
研究責任者	小児科 藤井 秀比古
承認年月	2024年11月

研究課題名	糖尿病教育入院における骨格筋率の増減に着目した分析
研究の内容	<p>【目的】 糖尿病教育入院で骨格筋率が減少する事例があるため、骨格筋率が増減する要因を分析する。</p> <p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●対象となる患者さん 西暦 2019 年 11 月 1 日から西暦 2022 年 3 月 31 日までに大垣市民病院へ糖尿病教育入院した 2 型糖尿病患者で運動療法が適応となった患者 ●利用する検体、カルテ情報 臨床所見（年齢、性別、身長、体重、運動制限に関する既往歴（脳梗塞や骨折、心不全など）、糖尿病合併症）、血液所見（HbA1c、血糖値、HOMA-R、HOMA-β、Hct 値）、食事内容（摂取カロリー、摂取蛋白量）、糖尿病治療薬（体重影響のもの）：インスリン、SGLT2 阻害薬、GLP-1 受容体作動薬、SGLT2 阻害薬、SU 薬、チアゾリジン薬）、体組成データ（骨格筋量、体脂肪量、BMI、SMI、位相角）、運動関連データ（10m 歩行時間、開眼片脚立位、レジスタンス運動実施回数、歩数） <p>【提供方法】 自施設 【利用範囲】 自施設 【情報管理責任者】 澤藤 州康 【拒否機会の保障】 研究対象者の求めに応じて、研究対象者が識別される試料・情報の利用又は他の研究機関への提供を停止する</p>
対象疾患	2 型糖尿病で運動適応となった患者
研究責任者	リハビリテーションセンター 澤藤 州康
承認年月	2024 年 11 月

研究課題名	総大腿動脈血栓内膜摘除術の中期成績と XenoSure®ウシ心膜パッチの有効性
研究の内容	<p>【目的】 近年、末梢動脈疾患では血管内治療（EVT）の成績が良好ですが、総大腿動脈（CFA）病変では血栓内膜摘除術（TEA）が第一選択です。内膜摘除後の補填材料として、XenoSure が 2020 年 4 月に薬事承認され、当院でも 2022 年より使用を開始しました。当院における CFA 病変の治療方法とパッチの使い分け、中期成績につ</p>

	<p>いて解析します。</p> <p>【方法】</p> <p>●対象となる患者さん</p> <p>CFA 病変を含む下肢閉塞性動脈疾患の患者さんで、西暦 2018 年 4 月 1 日から西暦 2024 年 7 月 31 日の間に総大腿動脈血栓内膜摘除術を受けた方</p> <p>●利用する検体、カルテ情報</p> <p>検体：病理組織</p> <p>カルテ情報：診断名、年齢、性別、身長体重、身体所見、検査結果（血液検査、X 線検査、心電図検査、ABI 検査、SPP 検査、超音波検査、透視 X 線検査、CT 検査）、手術記録など</p> <p>【提供方法】 自施設</p> <p>【利用範囲】 自施設</p> <p>【情報管理責任者】 山川将人</p> <p>【拒否機会の保障】 研究対象者の求めに応じて、研究対象者が識別される試料・情報の利用又は他の研究機関への提供を停止する</p>
対象疾患	下肢閉塞性動脈疾患
研究責任者	胸部外科 山川将人
承認年月	2024 年 11 月

研究課題名	2 型糖尿病に対するチルゼパチドの効果
研究の内容	<p>【目的】</p> <p>2 型糖尿病に対するチルゼパチドの血糖降下・代謝改善効果を実臨床で評価を行う。</p> <p>【方法】</p> <p>●対象となる患者さん</p> <p>2 型糖尿病の患者さんで、西暦 2023 年 5 月 1 日から西暦 2024 年 11 月 31 日の間にチルゼパチドの投与を受けた方</p> <p>●利用する検体、カルテ情報</p> <p>検体：血液検査、尿検査（診療または他の研究で使用した余りの検体で保管することに以前同意をいただいたもの）</p> <p>カルテ情報：診療記録より年齢、性別、身体所見、検査結果（血液検査、尿検査、画像検査、その他）</p> <p>【提供方法】 自施設</p> <p>【利用範囲】 自施設</p> <p>【情報管理責任者】 藤谷 淳</p>

	【拒否機会の保障】研究対象者の求めに応じて、研究対象者が識別される試料・情報の利用又は他の研究機関への提供を停止する
対象疾患	2型糖尿病
研究責任者	藤谷 淳
承認年月	2024年12月

研究課題名	多発性骨髄腫に対する二重特異性抗体治療—安全運用を目指した多職種連携の取り組み
研究の内容	<p>【目的】 多発性骨髄腫治療における二重特異性抗体の有害事象の検討</p> <p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●対象となる患者さん 西暦2024年1月1日から西暦2024年12月31日の間に多発性骨髄腫に対する二重特異抗体治療を受けた患者さん ●利用する検体、カルテ情報 検体：なし カルテ情報：年齢、性別、病歴に関する情報（初発時期、再発時期、治療歴）、臨床病期、血液検査、骨髄検査、治療開始時期、治療反応性、予後、有害事象 <p>【提供方法】自施設 【利用範囲】自施設 【情報管理責任者】小杉浩史</p> <p>【拒否機会の保障】研究対象者の求めに応じて、研究対象者が識別される試料・情報の利用又は他の研究機関への提供を停止する</p>
対象疾患	多発性骨髄腫
研究責任者	血液内科 小杉浩史
承認年月	2024年 12月

研究課題名	オピオイド注射セットオーダー使用促進における安全性と有効性の評価
研究の内容	<p>【目的】オピオイド注射セットオーダーの使用頻度および安全性と有効性について評価する。</p> <p>【方法】2022年9月～2024年8月の間に、がん性疼痛のためにオピオイド注射を開始した入院中の患者さんを対象とする。調査項目は、年齢、性別、がん種、痛みの評価（NRS）、オピオイドの種類・</p>

	<p>投与期間・投与量・レスキュー回数、オピオイド注射セットオーダー有無、医師からの指示内容等とする。</p> <p>【提供方法】自施設</p> <p>【利用範囲】自施設</p> <p>【情報管理責任者】鈴木宣雄</p> <p>【拒否機会の保障】研究対象者の求めに応じて、研究対象者が識別される試料・情報の利用又は他の研究機関への提供を停止します。</p>
対象疾患	各種がん
研究責任者	薬剤部 鈴木宣雄
承認年月	2024年12月

研究課題名	日本版抗コリン薬リスクスケールを用いた転倒予防のためのリスク評価研究
研究の内容	<p>【目的】</p> <p>入院患者さんの転倒は骨折や死亡、医療費増加など重大な問題であり、その予防は重要視されています。特に抗コリン薬は転倒リスクを高めるため評価が必要です。日本版抗コリン薬リスクスケールと転倒リスクの関連を解析する研究を行います。</p> <p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●対象となる患者さん 西暦2022年1月1日から2023年12月31日の間に入院した患者さん ●利用する検体、カルテ情報 カルテ情報：年齢、性別、入院時のADL（食事、移乗、整容、トイレ動作、入浴、平地歩行、階段、更衣、排便管理、排尿管理）、転倒の有無、併用薬 <p>【提供方法】自施設</p> <p>【利用範囲】自施設</p> <p>【情報管理責任者】森光輝</p> <p>【拒否機会の保障】研究対象者の求めに応じて、研究対象者が識別される試料・情報の利用又は他の研究機関への提供を停止する</p>
対象疾患	転倒
研究責任者	薬剤部 森光輝
承認年月	2024年12月

研究課題名	抗がん剤の単回バイアル複数回使用（DVO）の最適化に向けた関連因子の分析
研究の内容	<p>【目的】 抗がん剤の単回バイアル複数回使用（drug vial optimization：以下、DVO）による医療資源の効率化及び医療費削減が注目されている。本研究では殺細胞性抗がん剤についてDVOによる削減効率を最適化するための因子を明らかにするため、実臨床での投与量からシミュレーションを行う。</p> <p>【方法】</p> <p>●対象患者 西暦2023年10月1日から西暦2024年3月31日の間に殺細胞性抗がん剤が投与された外来通院中のがん患者</p> <p>●利用する検体 カルテ情報：使用薬剤、薬剤投与量、薬剤投与日</p> <p>【提供方法】 自施設</p> <p>【利用範囲】 自施設</p> <p>【情報管理責任者】 藤田峻介</p> <p>【拒否機会の保障】 研究対象者の求めに応じて、研究対象者が識別される試料・情報の利用又は他の研究機関への提供を停止する。</p>
対象疾患	がん
研究責任者	薬剤部 藤田峻介
承認年月	2024年12月

ここに記載しました臨床研究で試料等の利用に同意されない場合には、研究実施診療科までお申し出下さい（代表電話番号：0584-81-3341）。